

キャリアのある方の就労支援

— 一年の差のある対象者との関係構築 —



○菅野未沙樹

(NPO法人コミュニティ楽創

就労移行支援事業所コンポステラ)

本多俊紀 (NPO法人コミュニティ楽創)

はじめに

- 精神障がい者には、キャリアを築いてきた中で発症し、そのキャリアを中断せざるを得ず、迷いながら障がい者手帳の取得や再就職を目指す方もいる。
- そのような方にとって、職業の再選択は、一般中高年者の再就職の難しさも重なり、様々な葛藤もある

今回、キャリアを築く中で病気を発症し、転職経験が少ないAさんへの再就職を、20歳ほど若い担当支援者が支援に関して考察し、報告する。

就労移行支援事業所コンポステラ



- 2010年に開設
- IPSモデルに基づいた支援
- 障がいの軽重に関わらず個別支援を実施
- 就労前訓練に重きを置かず、迅速な一般就労を目指した支援と、就労後の支援を行う
- 毎年20-40件ほどの就職者

事例の紹介

- Aさん: 双極性障がい 50代男性 既婚
 - 子は独立
 - ホテルや飲食店で接客を20年以上経験していたが、精神疾患を発症し離職
 - B病院の心理士により事業所を紹介された。
- ※ 精神保健福祉手帳を利用中に取得



利用開始当初のAさん

利用開始当初、事業所の年配スタッフより

歳の数だけ頑張って受ける必要があるよ

頑張って応募します！！

Aさんは短期間で7-8社応募

...しかし不採用が続く



スタッフ



利用開始当初のAさんと担当

- 不採用が続いたことにより不調に...
- 2週間、事業所に来なくなり、再来所するも10分程で帰宅



担当

年の差のある年長者への支援は初めて

年下なのに、
変なこと言ったら失礼だよな・・・
どう励ましたらいいんだろう・・・
どう声がかけたらいいんだろう・・・

まずは、話を聞いてみよう

Aさんと所長と担当とで面談

障がいを開示した就職活動は初めて
前の転職は知人の紹介だった...


改めて志望動機の書き方や、病気、
欲しい配慮の伝え方について知りたい



Aさんも困っていて、相談したかったんだ

気持ちを立て直し、週3日から通所再開

関係の再構築



1日1回はAさんと接点をもち生活のことや就活のことについて話すようにしよう

関係が少しずつ変化し、応募の仕方も変化

- ハローワークを活用し、病気や配慮の伝え方のアドバイスをもらう
- 障がい者求人だけでなく一般求人へも応募
- 担当と話し、求人情報や応募の工夫についてたくさん話すように



就職活動



- 希望条件に近づけるため、一緒に職場開拓



応募書類を添削していただきたいんですけど、お願いできますか？

ほっ

利用5カ月目：「歳の数」程受けたころ、障がい者求人の事務職に就職

子どもの結婚で相手親族に会う前に就職することが出来た（ほっとした表情で）

就職後の支援①

- 以前の不調の経験から、慎重に勤務調整をし、短時間勤務から開始

1ヵ月かけてフルタイムに移行

この間に
週1で
打合せ

どうやって職場の人と関係を築いていこうか？
仕事を増やしていく工夫は？

2ヵ月目より通院日に合わせた月2回の面談に

就職後の支援②

職場訪問

仕事の状況
就労後サポート
報告

みんな忙しそうで、
ちょっと聞きにくい...



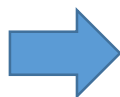
うまくコミュニケーション取れてないし...
前みたいに調子を崩したらどうしよう...

心配だな...
でも...

Aさんと職場の力を信じて
少し待ってみよう



介入を控えたが...



時間とともに乗り越える

就職後の変化

同僚との関係

一緒に働く仲間と徐々に話すように

相談苦手

少しずつ周囲への尊敬と信頼関係を

担当との関係

家族との関係など、お互いのプライベートを話すように

職員・利用者との関係

他の職員や利用者との話に加わり、質問に応える姿が

自分の就活経験を他の利用者に伝えたい

周りの人への貢献

人間関係を取り戻していく

パウポ
初めて



就職後の変化②

・・・就活を振り返った時

事務職を選択するのは、何かを諦めてたんじゃないかと思って、いろいろな求人を渡していたんですね



体力や趣味を大事にしたいくて、時間と勤務を固定したかったから事務だったんですけどよ
だから今、充実しているんですよ

考察① 担当との関係の変化

やり方わからないけど相談できない



「キャリアのある人」というAさん像

年の差・尊敬・敬意



声かけや助言、励ましへの戸惑い

接点増加

自己開示

~~思い込み~~

他職員の協力

「関係改善」と「双方向の信頼関係の醸成」に

- 年の差を超えた等身大の関係へ
- Aさんと他職員とのつながりも変化

考察① 担当との関係の変化

自己開示

当初すれ違っていたが……



日々声を掛けあい、
お互いの頑張りを見て
お互いを励ます



伴侶的關係が示すのは、クライアントが課題に取り組んでいく際に、ワーカーがその人と協働して課題解決のために行動することである(C.Aラップ)

目標を共有する伴侶的な関係に？

さらに周囲の協力も得られるような変化に？

考察② Aさん自身の変化



何を相談して良いかわからず悩んでいた

ひとりで抱え込んでいた

不安の開示

安心・信頼

受け入れる
余裕



助言・励まし



強固な協力関係と就活に？

考察② Aさん自身の変化

安心できる就活

コミュニケーション・人間関係の広がりへ？



人の役に立ちたい...

役に立てるかも...

援助システムは、隔離されあるいは施設化された環境から結合されノーマライズされた地域環境に焦点を移すことによって、リカバリーを促進できるのである(D.Rベッカー)

支援者のみならず当事者にとっても
結合された環境に焦点を移すことになり、
より希望に向けたリカバリーをもらたした？

まとめ

キャリアを築いてきた中で、異業種へのキャリアチェンジは年を重ねるごとに難しさを感じ、ストレングスに目が向きにくくなる

しかし生かされるストレングスは存在する

Aさんのようにキャリアを築く中で障がいを得る方は少なくない。そのような方に支援者ができることは、信頼関係を築き、励まし、希望を持つことを応援し続けることかもしれない

ご清聴ありがとうございました

